

国際ロータリー
2021-22年度



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

Rotary
Club of Ginowan

国際ロータリー 第2580地区 宜野湾ロータリークラブ

2021-22年度 会長：宮城 富夫

幹事：仲村 真二

クラブテーマ：「不易流行」の実践で、ロータリー活動の充実を！

基本方針：

本年度のシェカール・メータRI会長は、「奉仕するとき、誰かの人生だけでなく自分の人生も豊かになる」、「人びとの世話をし、奉仕することこそ、人生の最高の生き方」と述べ、奉仕プロジェクトへの積極的な参加を会員に呼びかけています。

RIテーマを、「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」と。

若林英博地区ガバナーは、RI会長テーマの実践目標として、「世界で、日本で、地域で、良いことをしよう」と地区ビジョンを掲げております。5つの具体的項目を前掲のガバナー挨拶の中で示しています。

このテーマ、ビジョンは、ロータリーの「奉仕の理想」を基本に、且つ、コロナ19禍も含めて新しい時代にあったロータリー活動が要求されていると捉え、

宜野湾RCにおいても、以上を念頭に置いて、ロータリーの理念とする「超我の奉仕」を実践する意味からも積極的に取り組み、見える効果として発揮しなければならないと思料しています。

さて、このような情勢もあり、私の年度の具体的方針として、例会のあり方を思考しながら、各種プロジェクト、プログラムを支援して行きたいと考えています。

1. 先ず、Webの活用です。Zoom等オンライン併用のハイブリッド例会の開催等、これを機会にICTの利活用をもって会員の新時代気運を高めたい。
2. 社会ニーズにあった奉仕活動、ロータリーデーの開催とタイアップしたロータリーの公共イメージ向上に強力に取り組むたい。
3. 社会的弱者救済もさることながら、青少年育成事業のYEP、RYLAへの積極的支援、ローターアクトクラブ等の再結成、提唱を図りたい。

以上の取り組み活動の主な目安、指針を次に掲げます。ご理解頂きまして、1年間よろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。



委員会活動の取り組み指針

1. クラブ管理運営委員会

会員が、「ロータリアンであることが、誇りである。」と、感じられるクラブ造りを目指す。これを実現するため、2018-19年度起案の「クラブの将来像(ビジョン)」策定作業を再起動・決定し、SDGsの概念を取り入れクラブ運営の安定化、活性化を図る。

1-1 プログラム委員会

- ・新入会員の卓話を2ヶ月以内に実施し、ピーアール等の機会を与える。
- ・話題のあるテーマや外部卓話者招へいなどオープン例会の機会を増やす。

1-2 出席・会場監督委員会

- ・規律ある中にも、楽しい例会を目指す。
- ・例会出席率を80%以上に目標を置き、長期欠席者防止など創意工夫する。
- ・ビジター、ゲストが楽しく参加できるように席配置、プログラム説明等工夫する。

1-3 親睦活動委員会

- ・炉辺会合(末火会)を復活して、会員の和気あいあいとした場を創出する。
- ・ロータリー情報・デジタル化推進委員会と協力して、気楽なロータリー勉強会の場を設ける。

1-4 友好クラブ委員会

- ・友好クラブ東京東村山ロータリークラブ、新規の姉妹クラブ台湾國中和園通扶輪社と常に情報交換交流しながら、地区大会、周年行事等の機会を大いに活用してリアル親睦交流を図る。

1-5 基金・規約管理委員会

- ・新入会員始め、会員への周知を図るとともに、新しいRI規則やニーズにあった規約改正、運用を目指す。特に慶弔規定の課題部分も改定する。

2. 会員増強・維持委員会

公共イメージ向上委員会と提携し、ロータリーの良い点、活動を市民に広報し勧誘環境を醸成する。

2-1 会員増強選考委員会

- ・目標5人増強:会員一人につき、1名の入会候補者を紹介、推薦を目標とする。
- ・青年会議所や商工会青年部の卒業生をノミネートし、勧誘に努める。
- ・新入会員アドバイザー(紹介会員、同業、同郷、同年代等)3名制度の実施。

2-2 ロータリー情報・デジタル化推進委員会

- ・ロータリー理念の原点、変化するロータリーなどの情報を逐一、情報提供する。
- ・「入りて学び、出でて奉仕せよ」の実践として、ロータリー勉強会の場を広く設ける。
- ・コロナ19禍時を機にハイブリッド例会を企画運用し、会員に日々進化する時代環境の変化に対応する柔軟性を習得する機会とする。



3. 公共イメージ向上委員会

市民参加型事業、行事をロータリーデーとして企画、実施し、地域社会に貢献すると共に、ロータリーのイメージ向上に繋げる。

3-1 広報・ウェブ委員会

- ・公共イメージ向上を目指して、ホームページ、SNSを活用する。
- ・広報の手段として、会報記事掲載を通して会報委員会とタイアップする。
- ・会報(週報)をこれまで以上にテリトリー内公共施設ロビーに展示して頂く。

3-2 会報委員会

- ・会員対象だけでなく、一般市民閲覧用も含めて記事内容に工夫する。
- ・会員の身近な近況など、会員提供レポートを週報に掲載する。
- ・週報に会員企業等の広告を4点以上掲載し、PRと同時に収入源を兼ねる。
、、、最小4社 * 5,000円*12か月 =240,000円/年(1ヶ月約3回掲載)

4. 奉仕プロジェクト委員会

4-1 職業奉仕委員会

- ・会員職場訪問を増やし、異業種理解の機会、意見交換等の場を設ける。
- ・各会員企業の主催する地域奉仕プロジェクトに積極的に参加、支援をする。

4-2 社会奉仕委員会

- ・地域社会が必要としている奉仕活動を主催および参画支援に取り組む。
- ・「環境保全」と「平和の希求」を目的に、ぎのわん憩いの市民パークでの継続的な”オオゴマダラを飛ばそう!”の事業を継続推進する。
- ・蝶々ハウスの補修整備を行い、維持管理を月2回程度行う。

4-3 国際奉仕委員会

- ・ロータリー財団委員会、米山奨学委員会の目標寄付額達成に協力する。
- ・バギオ基金の地区プロジェクトへの支援。
- ・宜野湾市国際交流協会や海軍病院との交流企画で国際理解、親善を図る。

4-4 青少年奉仕委員会

1) 青少年交換プログラム(YEP)

派遣スポンサー、受入ホストの要請があれば、世話体制を積極的に構築する。

2) ローターアクトクラブ(RAC)[19歳~]の再結成に取り組む。

2019年10月上限年齢30歳廃止により緩和されたため門戸が広がり、会員職場の若者や御子息等への呼びかけが容易になった。

3) インターアクトクラブ(IAC)[12歳~18歳]の新規提唱を模索する。

55th記念事業での縁がある中部商業高等学校のEスポーツを第1候補にする。

4) ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)

ロータリーの実践を担うリーダー養成の参加者派遣を推薦、推進する。

5. ロータリー財団委員会

RIの継続事業である「年次基金、恒久基金、ポリオプラス基金、平和フェローシップ」などRI財団への寄付目標達成に協力する。

特に、基金への大口個人寄付者を増やす努力をする。

6. 米山奨学委員会

米山学生の世話クラブ引き受けを継続する。

米山奨学制度支援の大口個人寄付を奨励する。